

## ③相ノ沢川総合内水対策事業

受賞機関 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所  
高知県 幡多土木事務所  
四万十市

**キーワード** 総合内水対策、流域治水、国・県・市連携、床上浸水回避

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

四万十市楠島地区の内水対策として、三者が連携して放水路を新設し、楠島川の洪水流量を中筋川へ分流。併せて排水施設整備や土地利用規制を進め、水害に強い地域を目指す。全国的にも課題となっている内水対策を実施するに当たり、事業内容、工程調整、管理面で国・県・市が、綿密に連携・調整を行い、事業を完成させた点が評価された。

### 1. はじめに

相ノ沢川は、渡川水系中筋川支川で、流域面積6.16km<sup>2</sup>、流路延長2.27kmの一級河川である。

平成26年6月の梅雨前線による豪雨では、相ノ沢川流域で家屋浸水等の被害が発生し、早急な浸水被害対策が求められた。この豪雨被害を受け、国土交通省・高知県・四万十市の三者が連携し、対策を実施することとなった。

### 2. 事業の概要

中筋川沿川は、上流に行くほど地盤が低くなる「低奥型」という地形で、内水氾濫が発生しやすいことから、相ノ沢川沿川では過去に何度も浸水被害が発生している。

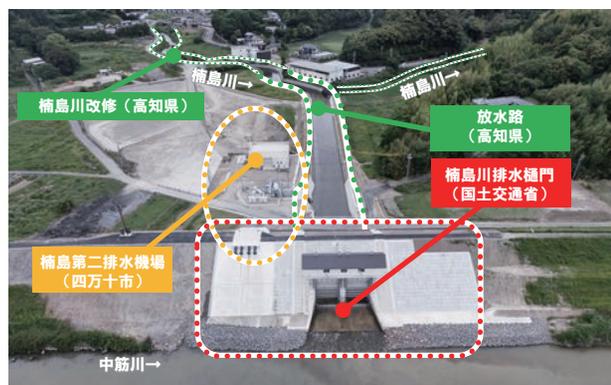
当該豪雨では、中筋川沿川の雨量観測所で24時間最大雨量が観測史上最大の468mmを記録し、相ノ沢川及びその支川である楠島川沿川で約105haが浸水し、家屋96戸（床上71戸、床下25戸）が被害を受けるなど、近年で最も大きな被害が発生し、浸水被害軽減に向けた対策が急務となった。

この豪雨被害を受け、平成27年6月に国土交通省・高知県・四万十市において「相ノ沢川総合内水対策協議会」を設立し、三者による計画・検討・協議を重ね、平成28年8月に「相ノ沢川総合内水対策計画」を策定し、

ハード・ソフト両面から対策を実施した。

主なハード対策として、国土交通省が中筋川合流箇所には排水樋門（幅6m、高さ3mの函渠2連、延長32.2m）、高知県が放水路（底幅10.5m、延長146.7m）、四万十市が排水機場（排水能力3m<sup>3</sup>/s）をそれぞれ施工した。工事中も定期的な連絡調整会議を開催し、工程や完成後の管理方法について協議しながら、連携して工事を進め、令和5年5月に竣工した。

また、ソフト対策として、四万十市は楠島地区における貯留浸透阻害行為を規制するための『四万十市水害に強い土地利用条例』を制定し、令和6年7月1日から施行している。



三者連携による内水対策工事

### 3. 事業の成果

これらの対策により、当該豪雨と同規模の降雨による家屋の床上浸水被害は解消され、その効果が現在も維持されている。これにより、地域の安全・安心が向上した。

### 4. おわりに

本事業にご協力いただいた、すべての関係者に深く感謝の意を表するとともに、引き続き洪水被害等の軽減に向け、あらゆる関係者と連携した流域治水などの治水対策を推進していく。



平成26年6月梅雨前線豪雨による浸水被害状況

賛助会員 日本工営(株)、(株)エイト日本技術開発、(株)福山コンサルタント、(株)建設技術研究所、豚座建設(株)、(株)ジオテック